



130年続く立ち居振る舞い

校長 佐々木 秀之

1月は行く、2月は逃げる、3月は去るといいますが、早いもので年が明けてから1か月が過ぎ、子供たちの登校日数は残すところ、卒業式、終業式まで40日を切りました。学校においては、学年のまとめをしっかり行い、進学、進級に向けての準備を進めてまいります。

さて、昨年12月10日（土）に挙行了いたしました、開校130周年記念式典におきましては、保護者の皆様、地域の皆様に温かいご支援を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

*

記念式典の6年生の態度、立ち居振る舞いについて、多くの皆様から「素晴らしい。」「感動しました。」「品がありますねえ。」というお言葉をいただき、大変うれしく思いました。私も、当日の6年生の所作、立ち居振る舞いは大変立派であったと思います。

しかし、立ち居振る舞いはその日だけやろうとしてもできるものではありません。日々の中で常に心掛け、継続することで、自然と身体に染み付き習慣化されるものです。そして大切なことは、立ち居振る舞いは相手を思う気持ち、相手を敬う気持ちを体で表現することだということです。

立ち居振る舞いは、その人の心を表します。慌てていたり、怒っていたりすると、動きも雑になったり、威圧的に見えたりします。また、なんとなく気分が乗らないと動きにメリハリがなく、ダラダラした印象になります。逆に心に余裕があると、丁寧でしかもきびきびとした動きになります。不思議なものです。

学校だけでなく、日常生活の中でもすてきな立ち居振る舞いが自然にできれば、きっと人生そのものが豊かになると思います。記念式典での6年生の立ち居振る舞いは、130年積み上げてきたからこそできたものだと思います。

6年生を褒めていただいたことに加えてもう一つ嬉しかったのは、ご来賓の皆様から、「いろいろなところに気配り、心配りが感じられ、今まで参列した周年の中で一番心に残る式典でした。」というお言葉をいただいたことです。控室に置かれていた折り鶴や水引、綺麗に清掃された廊下にさりげなく置かれていた花など、PTA周年実行委員の皆様や周年ボランティアの皆様のおもてなしについて多くの皆様からお褒めいただきました。あらためて保護者の皆様の気配り、心配りに感謝申し上げます。

*

本校では「言動分離」～あいさつをしてから礼をする～、いわゆる「語先後礼」に取り組んでいます。すでにその習慣は定着しており、本校の校風となっています。子供たちや保護者の皆様、地域の皆様の心の故郷として、そして、それぞれの夢や願いを実現させる場所として、皆様のお力をお借りしながら、大泉小学校の新たな歴史を創り上げてまいります。